



# 「下村満子の生き方塾」ニュース

【号外】2020.2

—2019年12月勉強会・忘年会 20年寒中接心特集—



## 硬軟織り混ぜ激動の2019年を総括



「ふるさと」合唱でフィナーレとなった忘年パーティー

「下村満子の生き方塾」は、2019年12月22日、東京・音羽の鳩山会館で12月勉強会と忘年会を開きました。「盛和塾」は19年末で解散することから、同塾東京塾生有志はオブザーバー参加し、さらに多くの応援団も駆けつけ、例年にない盛り上がりとなりました。

勉強会では、同会館の大家である鳩山友紀夫元総理夫妻がそろって特別講演し、下村塾長は、この年1年を総括する講話を行いました。応援団講義は、最先端のライブ・ストリーミングサービス事業を展開し注目を集めている「ショールーム」社長の前田裕二さんが、「天命を認識する瞬間」と題して行われました。前田さんは何の気負いもなく、サラサラと話をしましたが、すさまじいばかりのその人生の歩みに、心を揺さぶられ涙ぐむ人もいたほどでした。忘年会は1年の活動を振り返る硬い部分と、カラオケを中心とした楽しい部分の二部構成で進められ、入塾希望のオブザーバーに、この塾の魅力をアピールしました。

(文責・構成 / 皆川猛)

### ●オマーン取材から付き合う

大森先生コメント

勉強会は三浦由紀子さんが担当し、杉村美智子さんが10分間坐禅の点鐘、松井一真さんのリードで塾生五訓を唱和しました。引き続いて応援団を代表して東京女子医大名誉教授の大森安英先生が下村塾長との出会いについてこう語りました。

「1970年、田中清玄さん（実業家）に頼まれて、アラビア湾岸の王家の女性の健康管理をしていました。イスラムの決まりにより、女性は女性医師しか診察できないからです。この体験を聞いた下村さんは、オマーンの日本人との混血の王女の取材の出張前に私を訪ねてきたので、アラブのことをいろいろ話しました。この王女取材は大スcoopになり、以来親しい付き合いをしています」



坐禅開始の鐘を鳴らす杉村さん



「塾生五訓」をリードする松井さん



塾長とのなれ初めを披露する大森さん

# 言いたいことは言い続けること

鳩山幸さん講演

応援団として鳩山夫妻が紹介された後、幸さんは次のように講演しました。

「友紀夫さんと世界を歩くと、訪れた先の翌日の新聞には、彼の来訪が1面で取り上げられています。彼は『俺が、俺が』と言うタイプではないから、日本では彼の大きさは知られていません。一方、今の日本の政治家は、彼とは真逆の人ばかりで、謙虚という言葉とは無縁の人ばかりです」

「私は人のご縁を大切にしています。優しい人には優しい人が集まり、清廉な人には清廉な人が集まります。確かな信念を持つ人のまわりには同じ考え方をする人が集まります。しっかりした基軸があれば、時にはふらついても中心軸に戻ります。こういう仲間とはいいところを吸収し、自分ができることを精一杯実践する。今の日本は、総理大臣を筆頭に、恥ずかしい限りですが、こうした政治をつくり出したのも私たち日本国民です。ぐずぐずと文句ばかりを言う前に、投票に行けばいいのです」

「空気を感しながらも、自分の考えをはっきり言わなければなりませんし、言い続けなければなりません。言い続けていけば、聞く人もやがては耳を傾けるようになります。私も下



「言いたいことは言え」との持説を述べる鳩山幸さん

村さんにならって、年に1回『みゆき塾』をやっており、感謝する気持ちや、心がいかに大事かを話しています」

「2019年はかつてないほど、災害が多い年でしたが、元凶は人間の利己です。自分さえよければいいと、環境や地球のことを顧みないで、やり放題にした結果です。地球を大事にしよう、プラスチックごみは出さないようにしよう。こうした声の積み重ねと実践があれば、私たちの未来を脅かす温暖化のスピードにブレーキを掛けられます。言い続けることが大切です」

# 北東アジアが連携すれば米軍基地不要

鳩山元総理講演

〈鳩山友紀夫氏の話 「令和の時代の日本の生き方」〉

幸さんに続いて、友紀夫元総理は「令和の時代の日本の生き方」と題して次のように講演しました。

「10日ほど前に、傍流ではありますが、孔子の77代目という人物に中国で会いました。直系は台湾に移っています。その彼は、「三人行れば、必ず我が師あり」という孔子の言葉を出しました。この意味は、三人で何かを行えば、良い手本となる人や悪い手本となる人がいる。それらを、自分を改めるための材料にすべきだ、という考えです。この言葉に中国の大きさ、懐の深さを感じました」

「中国には、2019年1年間に25回行き、福建省の湄州島で行われた媽祖フォーラムに参加してきました。この小さな人口4万人の島で、運転手もハンドルもない無人カーに試乗しました。この離れ小島に5Gが張り巡らされていたのです。米中間では、5Gをめぐる主導権争いが激化していますが、残念ながらトランプ政権の圧力によって、日本は5Gという産業技術を放棄させられています」

「日本のメディアは、中国に関して悪いイメージを植え付けているのではないかと危惧しております。高速鉄道はとても危険だと言っていますが、そんなことはありません。つい2週間前の今月3日に、習近平さんと会いましたが、習さんは『自分たちには覇権というDNAはない』と言っています。一

帯一路構想について説明を受けた際、私は友愛の精神でやってくれと注文しました。友愛とは仁であり、自分がしてほしいくないことは、相手にもしないという考えである『恕』にも通じるものです。」

「日中・日韓・日露関係は満足できる状況にはありません。特に日韓関係は、日中関係以上に重要なのに、日本人の嫌韓感がかつてないほど高まっているのは残念なことです。10月に韓国に行き、「共に民主党」という政党の青年部で講演しましたが、そこで強調したのは、過去の歴史を乗り越えましょうという視点です。歴史の真実を互に見つけて互いに理解を深める。そうすれば負の歴史を克服できるはずですよ」

「日韓関係悪化の原因は、元徴用工への補償問題があります。この講演には、日本で亡くなった元徴用工の孫が話を聞きに来ました。第2次大戦で日本が敗北するまで朝鮮半島は日本の植民地であり、半島から徴用工として日本にやって来た人たちは、ほぼタダ働きさせられました。1965年の日韓基本条約で、このタダ働きについての請求権は決着しました。だから安倍さんはこの問題は終わった、と主張していますが、個人補償ではないから、元徴用工らはタダ働きへの補償を求めています」

「そこで私は、内田樹さんが提唱している無限責任論を主張したいのです。侵略を受けた人たちが『もういいよ』と言うまで、『すまなかった』と言い続けるのです。国民全体がす

まなかったという気持ちを持っていれば、相手は許してくれます。国際人権法と言う法律があり、日本も批准しています。この法律では国家間の決まり事より、個人の賠償請求権の方が優先します。そこで韓国の大法院は個人の請求権を認めたわけです。請求額は微々たるものであり、訴えられている日本の大企業にとっては屁でもありません。しかしこれに待ったを掛けているのが、安倍政権です。実際のところ、日本が植民地支配の後始末をきっちりしていないのは事実です。敗戦と同時に、半島にいた日本の支配層はいち早く日本に帰ってしまいました」

「こうした問題がクローズアップされている時、日本は半導体問題を持ち出し、ホワイト国条項を取り外しました。今度は韓国側がGソミアの延長はしないと申し出しました。Gソミアは失効直前で延長が決まりましたが、日韓関係を改善するには徴用工問題を決着させることが一番です。韓国国会の文（ムン）議長も解決案を提示しています。」

日韓関係のギクシャクを解消しない限り、北朝鮮問題も解決しません。北とは無条件で話し合うと安倍さんは言いますが、核、拉致、ミサイルは無条件の外にあります。安倍さんは対話による解決を北とアメリカが模索している時、対話の時代は終わったと高言した人ですから、北は安倍さんを信用していませんし、この失言によって、北問題では日本は、交渉の蚊帳の外に置かれています。拉致問題を解決するには、国交正常化以外に道はありません」

「北に核を捨てさせ、ミサイル開発を止めさせ、北、韓国、中国、日本の北東アジア 4 国の関係がうまくいくなら、果たして在日米軍は必要なのか。アメリカ製の高い兵器を買う必要があるでしょうか」

「日中関係で言いますと、中国脅威論がありますが、尖閣諸島問題に火をつけたのは、日本です。中国脅威論を焼き付けているのは、武器輸出国アメリカで、しかも思いやり予算

を 4 倍増やせと不当な要求を掲げています。緊張が解ければ、増え続ける日本の防衛予算にくさびを打ち込めます」

## ●桜を見る会は政治の私物化

「安倍さんの長期政権は、驕り高ぶりの政治です。今、『桜を見る会』が問題になっていますが、実は私も総理時代、50人ぐらい招待しましたが、安倍さんは何と 800 人も呼び、前夜祭までやっています。費用 1 万 1 千円も掛かるのに会費は、半分にも満たない 5 千円です。差額を安倍事務所が出せば、公職選挙違反、ホテルニュー大谷が負担すれば、政治資金規正法違反です。小さな話ですが法的には大きな問題なのです。世論の風当たりが強くなると、突然沢尻エリカの麻薬問題を取り上げて、世間の目をそらさせました。『桜を見る会』は安倍政権が転換期に差し掛かっていることの特徴です」

「私は、日本はどうあるべきなのかをテーマにした本を書いています。多数決を基にした民主主義が本当に国民のためになっているのか。民主主義はあくまでも装置に過ぎません。国民の幸せを実現するには、共通善に基づいた、共和主義による政治が必要とされているのではないのでしょうか」



「桜を見る会」問題は、政治の私物化そのものと断罪する鳩山元総理

## 塾長の人柄が入塾の引き金に一応援団、新塾生があいさつ

鳩山夫妻の特別講演に引き続いて、応援団と新規入塾生の挨拶がありました。

新潟から駆け付けた応援団の小川真琴さんは「2 か月前の 10 月に初めて講演をさせていただき、皆さんから温かい励ましを受けました。今日はじっくり勉強したいと思います」と話をしました。

新入塾生は氏家範昌、高橋宏史、浮田ナミさんの 3 人があいさつしました。

氏家さんは「IT のシステム開発会社を経営しており、2 年前に盛和塾に入りました。坐禅会のメンバーになってからは、毎日 15 分坐り、下村さんの話には興味を持っています。盛和塾は解散します。盛和塾と『生き方塾』の理念は共通しているので、入塾しました」と入塾の動機などについて語り



新潟から駆け付けた小川さん



「生き方塾」の理念に魅かれたと氏家さん

ました。

高橋さんは「下村塾長とは盛和塾の坐禅会で知り合いました。以前から入塾しようと考えていたのですが、課題が多くあってなかなかできませんでした。先月の11月、濱田副塾長の強い後押しもあって、入塾しました。しっかり学びたい」と決意を表明しました。

浮田さんは「2か月オブザーバー参加し、この塾は心地よく、自分の居場所に巡り会えた気がしました。朝日新聞社の役員室に勤務していましたが、その時から下村さんはすごい人だと感じていました。下村事務所のスタッフ募集広告を見て、事務所を訪ねたのですが、この塾の素晴らしさを知って、それどころではなくオブザーバーになり、今回入塾しました」と熱く語りました。



しっかり学びたいと高橋さん



自分の居場所に巡り会えたと浮田さん

## 日本は認知症国家になってしまった

塾長講話

### ●官も財も平気でウソをつく

下村塾長は、2019年の総括と2020年の展望を中心に、以下のように講話をしました。

◎今日が、令和元年最後の勉強会です。鳩山夫妻のお話に触発されて、胸がワクワクしています。

◎昨年、2018年の11月下旬、16歳の時に会った夫が急死しました。私たち夫婦には子供がいないので、このごろは特に、天涯孤独だとしみじみと感じるようになりました。おせっかいで、迷惑だと思われるかもしれませんが、塾生の皆さんを家族同然だと感じています。

◎今年1年を振り返ると、1月には「盛和塾東京」の坐禅の会と「生き方塾」共催で、ホノルル接心を行いました。ハワイは、私たち夫婦にとって思い出の地であり、ホノルルで接心できたことも、夫の供養になったのではないかと考えています。

いい人生を送るには、心を高めるしかありません。接心の会場となったパロロ禅堂は、父のアメリカ人のお弟子がつくった禅堂で、濱田副塾長は、この接心で見性されました。

◎今期から、毎月の勉強会のスタイルを変えました。会場は原則東京として、隔月で午後の応援団講義の時間を坐禅の時間に充てています。

年に2回、学びの成果発信の場として、福島で公開講座を開きます。

新年2020年3月29日(日)には、郡山で、「原発は要らない、自然エネルギーだけで日本はやっていける」という主旨の公開シンポジウムを開きます。自然エネルギーはご当地エネルギーですから、ホルムズ海峡閉鎖など、心配する必要ありません。

◎8月には、Jビレッジで合宿をしました。福島第一原発の廃炉作業現場、除染ゴミの中間貯蔵施設などを視察し、皆で大いに議論をしました。この学びの成果は、公開シンポで発信します。



日本は嘘つき国家に成り下がったと塾長

◎稲盛京セラ名誉会長が主宰する「盛和塾」は、2019年12月末いっぱい解散します。

日本経済を支えているのは、大企業ではなく、実は中小零細企業なのです。その経営者たちが稲盛塾長から学んできたのが、「社長は社員の物心両面の幸せを図る」べきということで、それを掲げているのが「盛和塾」なのです。稲盛さんは言います。「経営者の心のレベルの以上に、会社は大きくなりません」と。この「盛和塾東京」には、「心を高める坐禅の会」という分科会があり、私がお頼まれして、坐り方などご指導しています。

「盛和塾」は解散しますので、この「坐禅の会」も解散となります。しかし、引き続いて坐禅を続けたいという「盛和塾」のメンバーは、「生き方塾」に入り、「坐禅の会」を「生き方塾」の分科会として引き続き、これまで同様坐禅を続けることができる。という決定がなされました。

既にこのことは「生き方塾」、「盛和塾」それぞれの役員会で確認していますので、本日オブザーバー参加している「盛和塾」の方で希望者は、ぜひ「生き方塾」へお入りいただければ、嬉しいです。

◎今年1年の日本を振り返ると、日本は「嘘つき国」になり、劣化の速度が加速している気がしてなりません。モリカケ問題では、安倍総理はじめ官僚たちが、平気で嘘の発言を繰り返

返し、「桜を見る会」の問題では、子どもでも分かるような嘘を国会答弁で行っています。しかも胸を張って、です。

しかし、選挙結果を見て分かるように、国民は怒っていないのですから、安倍さんは平気なのです。

◎国のトップがそうだから、民間も平気で嘘をつきます。特に大企業ほど、でたらめをやっています。大企業は株式会社ですから、潰れても個人保証はありません。トップたちはどうやったら長くトップでいられるかだけを考えますから、冒険はしないし、粉飾決算も気にしません。「今だけ、お金だけ、自分だけ」の3つの「だけ」が、まかり通っています。

◎簡保生命の詐欺行為もトップの腐敗が引き起こしたものです。郵便局といえば、国民、特に高齢者は絶大な信用を置いている組織です。その郵便局が罪を犯しているのです。トップは、国や官僚の天下りで、営業現場のきつさに目をつぶりながら、局員に高いノルマを課して、自分たちは汗を流さず、のうのうとしています。犯罪を行っているのに、トップたちは引責辞任する気はなく、処分にしても総務省にいる後輩たちが情報流すから、事前に対策を講じてしまう。国にも監督責任あるのですが、誰も辞めません。

◎この腐敗ぶりは、電力もそうです。関電の腐敗も、辞めたのは会長だけです。皆で誤魔化していれば、国民の多くは忘れてしまうから、責任を取るといふ潔さは、日本の国では忘れられつつあるようです。

◎精神科医の和田秀樹さんと会った時、彼は「日本は総認知症国家」だ、と言っていました。モリカケ問題、関電問題、桜を見る会など、いろんな問題が噴出しているのに、選挙になれば安倍さん率いる自民党が勝って政権を維持します。和田さんは言います。日本人の9割は認知症だから、問題をすぐ忘れてしまい、嘘つき政権が続いている、と。

◎つまり、日本は民主主義国家ではなくて、「民主主義もど

き国家」なのです。情報公開はしないし、ヤバイ情報は直ぐにゴミにして捨ててしまいます。本当は捨ててはいいませんが、捨てたことにしています。しかも、データベースに残っている情報は、文書でないから行政文書ではない、だから公開できない、などと詭弁を弄し、うそぶく始末です。

◎こうした日本を、和田先生は、「日本を封建国家だと思えばいい」とおっしゃいました。総理が殿さまだから、たとえ虚偽の発言をしても「御意」と肯定せざるを得ないのです。国会議員も、多くは2世、3世ですから、家来扱いで、殿さまに逆らうことはできません。

## ●世界平和なくて日本平和なし

◎今、人類は、そのあり方、生き方の本質を問われています。温暖化は、人間の果てしない欲望の結果です。人間の欲望が、地球という生命体を食い荒しているのです。人とは何か、という原点に立ち返れば、やるべきことは分かるはず。腹八分目、足るを知るという言葉がありますが、今、人類に必要なのは、この考え方です。人類の家である地球を守ることが、待ったなしで求められています。

◎世界は、各地で紛争が起こり、緊張が続いています。日本国民が平和に生きるには、世界が平和でなければなりません。途上国が平和で、かつ発展すれば、市場は拡大します。市場が拡大し、その結果として世界の人々に満足感が生まれれば、戦争する気にはなりません。

◎幸せとは、数値で測れるものではありません。今の時代は、目に見えないもの、つまり数値で測れないものに価値がある時代です。日本は経済成長を追求した結果、心貧しい国になってしまいました。何を目標にして生きるのか。来年の課題が見えてきました。新たな課題に立ち向かいましょう。

# 努力がフェアに報われる社会を実現

前田さん応援団講演

## ●人間臭さがキーのIT業界

塾長講話に続いて前田裕二さんが「天命を認識する瞬間」と題して応援団講義をしました。

前田さんは1987年東京生まれ。2010年早稲田大政経学部を卒業後、外資系投資銀行に入り、11年からニューヨークで機関投資家を相手にした営業活動に従事。営業トップの実績を重ね、13年5月DeNAに入社。同年11月、仮想ライブ空間「SHOWROOM」を立ち上げ、現在はSHOWROOM(株)社長としてSHOWROOM事業を引っ張っています。

前田さんの講演要旨は次の通りです。

◎1987年、東京で生まれ、葛飾区で育ちました。小さい時から両親はおらず、10歳年上の兄に育てられました。どうすれば兄に喜んでもらえるかと考え、早稲田大政経に入り、大学を卒業後、スイスの投資銀行であるUBSに入社しました。



ゲストスピーチをした前田さん

◎今はIT事業を行っていますが、ITの世界は真似がたやすい世界なので、差別化が難しい仕事です。

目に見えるモノや数値など物質面での差別化は困難なので、人が見えるストーリーによる差別化を強く意識してきました。つまり、人間臭さが表に出ないといけない。ネット業界では、「なぜその事業に命をかけるのか」が起業家を通じて見えることが、成功の要になっている気がします。

◎SHOWROOMは、バーチャルアイテムを投げ込んだりする「ギフティング」が特徴の、ライブ配信サービスです。オーディエンスを可視化したこのビジネスモデルを思いついたきっかけは、自分が小さい時、生きるために弾き語りをしていた体験にあります。配信者としても、ちゃんと聴衆がいることが感じられると、それが大きな励みになり、勇気づけられます。ネットの世界は匿名が特徴ですが、視聴者が匿名と実名の間にいれば、悪意に満ちたコメントはなくなり、温かい言葉が流れます。

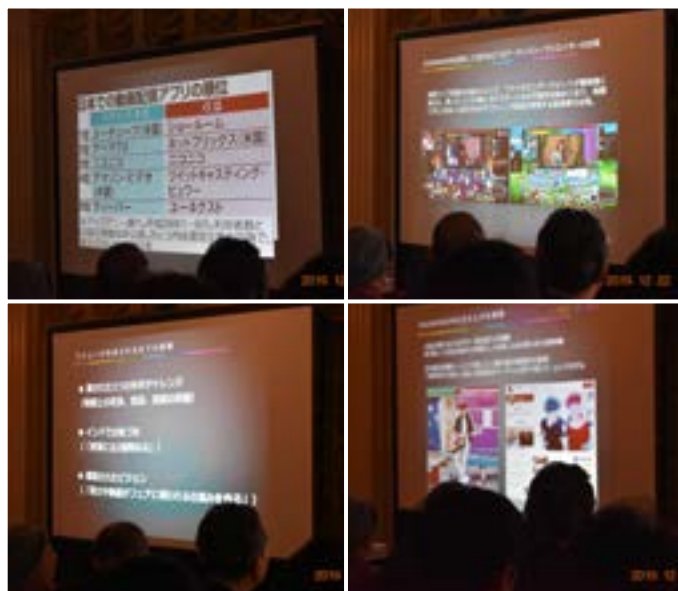
◎SHOWROOMの他の特徴として、生配信・リアルタイムに特化している、というのがあります。ちなみに、生とアーカイブ（録画）の関係でいうと、アーカイブを求められていても、それでも僕は生にこだわっています。少し理屈っぽいのですが、事業を運営していると、お客様が求めているのは、必ずしもお客様が求めているものではない、ということがままあります。例えば、お客様がアーカイブを要求することは多いのですが、ただそれだけに耳を傾けていれば、リアルタイムに集合する理由が薄くなって、お客様が離れてしまいます。面白いですね。

◎社会が成熟していく中で、自分が今持っている目の前の千円をどう使うかを考えてみます。他人の夢実現に千円を使うのか、自分のために千円を使うのか。私は他人のために千円を使うことがより幸せと感じる世界がくることに掛けています。それは、努力がフェアに報われる社会実現という私のテーマに収束します。

◎幼少期の自分はずっと、運命を恨み、不幸だと思っていました。3歳の時に父が亡くなり、8歳の時には母が亡くなりました。父の死は記憶がありませんが、母の死は突然だったので、世界は真っ暗になりました。8歳小2の私は、しばらく家がない状態でした。しばらくして、親戚の伯母が引き取ってくれました。兄は母が亡くなった時、職安で仕事を見つけて、その仕事を今でも続けています。

◎小4の時には、近所の駄菓子屋に、半人前、ということで、時給400円でバイトしたいと申し出たら、断れました。給料は、安定的な売り上げがあって初めて払えることを知りました。

◎バイトしたくても、子供ゆえにバイト先はなく、したがってカネもありません。11歳小5の時、ある日家に帰った兄は、私の不始末に号泣し激怒しました。それは初めての体験であり、自分の行いが兄をそれほどまでに苦しめていたことを知りました。兄を悲しませてはならない。この経験から小5の終わりに、兄を幸せにしたい、という強いモチベーションが生まれました。



## ●小6には駅前で弾き語り

◎小6になった時、親戚がギターを私にくれ、そのギターを持って駅前で歌い始めました。最初の頃は、毎日歌って稼ぎは1ヵ月でたった500円でした。特に、オリジナルはお金になりませんでした。お金をもらえるのは、大人世代によく知られている歌謡曲や演歌を歌った時で、時折、投げ銭してくれるようになりました。オリジナルでは稼ぎになりませんから、歌謡曲に力を入れ、客のリクエストに応えるために、一週間ほど練習してから歌う。するとお金がよく集まるようになり、最後にオリジナルを歌うようにしていました。お金を稼ぐには、これが一番の方法だ、と思いました。

◎前後しますが、中1の時に、私の家族関係は複雑なことを知り、どうして自分は不幸なのか、なぜ悪いことばかり重なるのかと思い続けたものです。でも、兄と親戚に薦められて、高校に進学することができました。

◎高校時代に考えたことがあります。海外で生活できるなど、家庭環境に恵まれた人だけが英語を話すことができ、英語をしゃべれる、その一点だけでエリートになれる。そんなことに負けたくない、と高校時代は必死で英語を勉強しました。ニューヨークで頑張ることができたのも、ハンディをバネにできたからだと思います。私が、高校、大学と学生時代に学んだことは、マイナスの値が大きいほど、プラスに転換した時、逆境は大きなエネルギーになるということです。

◎大学時代、自分は不幸だと思っていましたから、自分よりも不幸な人に会ってみたいと思い、インドに行きました。インドでは、階級社会の空気がいまだに深く根をおろしている現状を目のあたりにしました。弱者たちは苛められ、さげすまされていました。

## ●逆境は実はプラス

◎そこで知らされたのは、逆境には、2種類ある、ということ。つまり、努力すれば克服できる後天的な逆境と、努力してもどうにもならない先天的な逆境がある、ということだ

した。その時、自分は恵まれていると分かりました。

◎その時、自分の天命は、努力すれば逆境を克服できる人々を、経済的に援助し、努力が報われる社会づくりをすることにある、と認識しました。「SHOWROOM」は、熱量の正しい向け方が分からないために損をしている人のために、始めた事業です。

◎2010年大学を卒業し、投資銀行に入った頃から、ライブ配信サービスを考えるようになりました。人には承認欲求があり、これをどう満たせばいいのか。これも事業の背景にあります。コンビニの無人化に象徴されるように、ITは他人との接点を持たなくても生活できる社会をつくっていますが、逆に人はアナログを求めるようになっていきます。

◎ITサービルの世界では、技術の裏側に人の存在を感じられるかどうかで、ヒット率が大きく変わります。つまり単に役に立つ、と言う価値や、単純機能の提供、デジタル価値だけでは勝てません。

◎目標を立てて達成する。達成するには絶対やるぞ、という執念がもちろん必要ですが、達成のための手段、工程表を見極めることも大切です。現在の地点と目標地点の差を見極め、熱量の向け先を考えて絞る。本来やるべきことを見極め、全力を注ぐ。逆境をバネにして、原動力にして、頂上まで登っていくということです。私の人生では、全てが通過点です。日本初の、世界一の企業活動も通過点です。

◎今、日本経済を見ると、実にハラハラする状況だと感じます。ラインとヤフーが合体しても、たった3兆円、営業利益は1500億円。テックジャイアンとは一方、100兆円の



塾長と問答する前田さん

規模で評価をされているわけです。小さな世界の中で小競り合いせずに、彼らを倒す、という気概を持って、もっと目標を上げていきたいと思っています。

◎今、日本全体に空気感として、おかしいことをおかしいと言いくくなっていることがあるかもしれません。「SHOWROOM」の手法で、もっとストレートに思いを表明できるようにならないものかと考えています。各界の卵たちが、自分の考えを主張でき、共鳴できる場になればと思います。

〈質疑応答の場で前田さんは次のような答えをしました〉

◎苦い体験をしているのになぜ、笑顔が美しいのかということですが、笑顔を美しくする努力は特にしていません。いまや、自分の体験は苦労だとも、自分是不幸だとも思っておらず、負を一定消化、むしろエネルギーに転換できているのでしょうか。それが表情に現れているのだとしたら、嬉しいことです。

## 激動の令和元年振り返り、新年の抱負誓う

勉強会が終わると、諸富英輔、常松景子さんが司会となって、待望の忘年会に移りました。下村塾長の開会挨拶に続いて、大野一彦さんが「激動の令和元年は間もなく終わり、生き方塾もかつてないほど、様々なことにチャレンジした1年でした。来年の飛躍に向けて、乾杯しましょう」と力強く語り、パーティーに入りました。第一部は、1月のホノルル接心から始まった2019年の活動をスライドショーで振り返り、ホノルル接心は高橋宏史さん、夏合宿は皆川がそれぞれ感想などを述べ、新塾生の崎山恭子さん、オブザーバーを代表し「ワセダクロニクル」編集長の渡辺周さんが感想を披露しました。

第二部はカラオケ大会。曾田時大さんがトップを切って「島人（しまんちゅ）の宝」を歌い、若手を中心となって次々と得意の歌を披露しました。中でも女性陣の「恋人はサンタクロース」では「恋人は下村満子」と歌詞の一部を換え、パー



忘年会開会のあいさつをする塾長

ティーを盛り上げました。フィナーレは「ふるさと」の合唱で、飯島充実さんから、恒例となった縫いぐるみのクリスマスプレゼントがあり、濱田総一郎副塾長の閉会挨拶、三本締めで、幕を閉じました。



乾杯の音頭を取る大野さん



忘年会を仕切る諸富、常松さん



クリスマスプレゼントに  
縫いぐるみを提供する飯島さん

## 2020年を「望年」し、宴もたけなわ



元気に持ち歌を歌う女性陣



替え歌を披露する女性塾生



男性陣も負けずにカラオケを熱唱



三本締めをリードする濱田副塾長



# 塾長の実家で寒中接心

「下村満子の生き方塾」は2020年1月31日から2月2日まで、二本松市の下村塾長の実家で、寒中接心を開きました。旧盛和塾東京の「心を高める坐禅会」との共催で行われ、塾長以下29人が参禅しました。ハワイ・ホノルルのパロコ禅堂以来、1年ぶりの本格的な接心となっただけに、和やかなながらも張りつめた空気の中で、16柱の坐禅をしました。



体験発表は岳温泉の陽日の郷あづま館で。塾長の左側はキャサリン老師(撮影・田中正行さん) キャサリンさんはカトリックの修道女ですが、塾長の父・山田耕雲老師の下で修業し、禅の老師になりました。キャサリン老師は「坐禅のお蔭で、台風や嵐にも動じない心を持つことができ、本当の生命(いのち)というものが分かるようになりました。坐禅こそ日本の世界遺産だと思います」と参禅者を励ました。



今回の接心は「生き方塾」に入塾したばかりの氏家範昌さん(左)が幹事を務めました



寒中らしい張りつめた空気の中で坐る参禅者